

3-1 整備コンセプト

本施設は、橘小学校と中生涯学習センター、前津福祉会館、前津児童館を複合化して整備するメリットを生かし、安全・安心で質の高い教育環境の実現を図るとともに、乳幼児から中高生期に至る子どもたちの育ちや、子どもから高齢者に至る幅広い世代の学びや福祉に資する施設として整備します。また、避難所としての防災機能の強化を図ります。

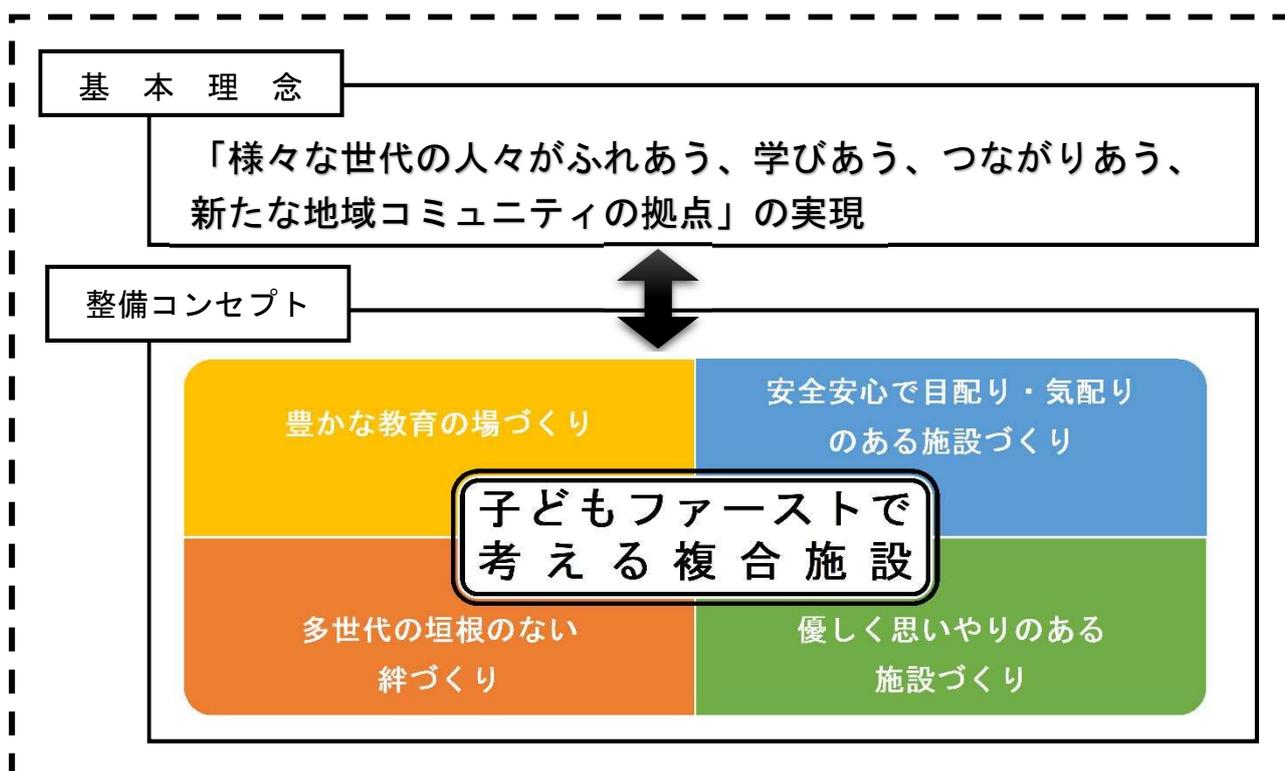
なお、本施設は「様々な世代の人々がふれあう、学びあう、つながりあう、新たな地域コミュニティの拠点」の実現を基本理念としつつ、橘小学校等複合化整備ワークショップ等による市民・利用者等の意見を踏まえ、施設の整備のための整備コンセプトを次の通りとします。また、そのコンセプトを実現するためのキーワードについても設定し事業を進めていきます。

<整備コンセプト>

子どもファーストで考える複合施設

<基本理念と整備コンセプトを実現するためのキーワード>

- ・豊かな教育の場づくり
- ・多世代の垣根のない絆づくり
- ・安全安心で目配り・気配りのある施設づくり
- ・優しく思いやりのある施設づくり



3-2 整備方針

基本理念及び整備コンセプト実現のために、複合施設全体に共通する整備方針、学校と生涯学習センター、福祉会館、児童館それぞれの施設ごとの整備方針を次のとおりとしました。

また、複合化にあたっては、「市設建設物再編整備の方針」に基づき、各施設の類似・重複する機能（部屋）について、利用実態を踏まえ、共有・統合の検討を行うなど、機能重視の視点で進めるとともに、学校と各施設の単なる合築ではなく、市民目線・利用者目線に立った効率的で一体的な運営・管理をめざすことなど、ソフト面の工夫をすることにより、市民サービスの向上をめざします。

その他、将来の児童数の増減や社会的ニーズの変化などに柔軟に対応できるよう、スケルトン・インフィル方式の採用など、将来の用途転用を行いやすくするような柔軟な設計、整備手法の導入を検討します。

【共通】

○人々がふれあい、絆が深まる、優しく思いやりのある施設づくり

複合化により高機能で多機能な学習環境が創出されるという特徴を活かして、児童の学びの場としてだけでなく、多様な世代の人たちのふれあいや学びあいが生まれ、地域の伝統文化や行事の継承など、地域の絆づくりに資するような施設づくりを行います。

また、わかりやすい施設配置・誘導（サイン計画）やセキュリティ対策、福祉都市環境整備指針に基づきエレベーターやユニバーサルトイレの設置、段差の解消などユニバーサルデザインの導入に配慮することで、乳幼児から高齢者までのあらゆる世代の方々や、障がい者、外国人などすべての人たちが安心して利用できる優しく思いやりのある施設づくりをめざします。

○安全・安心な施設づくり

学校と市民利用施設の出入口を分離することや動線及びアクセスエリアを明確に区分できる施設配置とすることで、各施設間における相互、共通利用の機能を確保しつつ、事故の発生防止や防犯機能の確保に配慮した施設づくりを行います。

また、不審者の侵入防止などの観点から街路照明や防犯カメラなどの設備の導入を進め、施設のセキュリティ機能を高めます。

さらに、蓄電池を備えた太陽光発電設備や情報通信設備の整備の検討、地盤調査等の結果に基づいた液状化への対応、防災倉庫の設置等の施設整備を行い、避難所としての防災機能の強化を図ります。

加えて、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえ、施設内の換気等に配慮した施設整備を行います。

○周辺環境に配慮した施設づくり

敷地内に歩道状空地や植栽帯などを設けることにより、周辺に対する施設による圧迫感を軽減するとともに、車寄せの整備などの路上駐車対策を行い、ゆとりある歩行者空間の確保を図ります。

また、運動場の砂埃対策や近隣への音の影響に配慮するとともに、建物の外観のデザインや色合いなどについて周辺の環境と調和した施設づくりをめざします。

○脱炭素社会の実現に貢献する持続可能な施設づくり

屋根や外壁の高断熱化やLED照明などの省エネルギー化、太陽光発電設備の導入などによりZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)化に向けた施設整備をめざすとともに、環境や地域との共生の観点から木材の活用、緑化に配慮した施設として整備します。

【学 校】

○行きたくなる学校づくり

学校施設全体を学びの場として捉え、廊下や階段など、あらゆる空間が学びの場であり、教育の場、表現する場、心を育む場となるような施設づくりを行います。

また、できる限り採光や通風、室内の色彩や防音に配慮するとともに、子どもたちの居場所となるベンチ等の配置や木材の活用などにより、温かみと潤いのある施設整備を検討します。

○子どもたち一人ひとりの個性に応じた多様で質の高い学びが促進される学校づくり

一人一台タブレット端末環境等に対応した教室や多様な学習活動への柔軟な対応が可能な多目的スペースの整備など、柔軟で創造的な学習空間の確保を図ります。

また、空調設備が設置され、多様な活動が展開可能な体育館の整備や複合施設内の諸室を必要に応じて学校が利用できるよう検討します。

○交流や学びあいを通じ、様々な発見や体験ができる学校づくり

学校と地域や施設利用者が連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる環境を実現するため、事故の発生や防犯機能の確保に留意した上で、学校の家庭科室や図書室等を学校が利用しない時は市民も利用可能な施設として整備します。

また、学校と市民利用施設が協働利用可能なスペース等の確保に努めます。

○安全・安心な学校づくり

児童が安全で安心して学校生活を送れるよう、見通しがよく、来訪者の確認や不審者の侵入抑止がしやすい位置に管理諸室を配置します。

また、防犯カメラ等を多く設置するなど、学校のセキュリティを高めます。

○子どもたちに豊かな放課後を提供する学校づくり

トワイライトでは、異学年の子どもたちとの交流、世代の異なる地域の人々との交流などを通して、子どもたちの自主性・社会性・創造性などを育むための活動をしています。

学校や複合施設内の諸室を必要に応じて利用して地域との交流を深めるなど、より一層子どもたちに多様な体験や活動の場を提供できるようにします。

【生涯学習センター】

○質が高い学びが保障され、多様な学習ニーズに応える学びの場づくり

生涯いつでも自由に学習機会を選択して学習することができるよう、引き続き様々な講座・事業を開催するとともに、より一層、講座の内容の充実に努めます。

また、多様な学習ニーズに応えるため、オンライン講座を配信・開催できる設備を導入するなど新たな施設が充実した学びの場となるよう施設づくりを進めます。

○新たな交流により創出された学びを活用できる場づくり

多様な人々が出会い、それぞれが持っている知識・情報・経験を共有・交換しながら新たな交流により創出された学びを活用できるよう、協働イベントの開催や交流スペースの確保に努めます。

また、小学校の児童をはじめ、様々な人々が展示、観覧できる施設整備に努め、多世代の垣根のない交流が促進され、市民の交流と地域活動の発展につながるような学びの場づくりに努めます。

○誰もが気軽に生涯にわたる学びやスポーツ・レクリエーションを楽しめる施設づくり

障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、誰もが気軽に生涯にわたる学びやスポーツ・レクリエーションに親しむことができるよう利用しやすい施設づくりに努めます。

防音・防振に配慮するなど、機能の充実した集会室等の整備や、学校と共同利用が可能な体育室を整備することで、より一層、生涯にわたる学びやスポーツ・レクリエーション環境の充実に努めます。

○誰もが気軽に生涯学習を親しむことができる施設づくり

誰もが気軽に生涯学習に親しむことができるよう、多目的更衣室の整備、要約筆記の投影設備やヒアリンググループなど、様々な視点に配慮し、機能を充実させた施設整備をすることで、誰もが気軽に学びのために施設を訪れることができる環境の充実に努めます。

【福社会館】

高齢者が新しい趣味づくりや、仲間づくりといったシニアライフを充実させ、好きな時に気軽に来て、自由に過ごしたくなる福社会館づくりを基本的な考え方として、以下の整備方針とします。

○気軽に立ち寄ることができる、出かけたくなるような福社会館づくり

趣味の講座、同好会活動など特定の目的がなくても、気軽に談話スペースを利用して、おしゃべりを楽しむ、ちょっとした困りごと、心配なことなどを気軽に相談するために立ち寄ることができる、そんなまちの「たまり場」としてふらりと立ち寄りたくなるような、親しみにあふれる施設をめざします。

また、新聞や本を読んだり、テレビを見たりするなど、利用者がゆっくりくつろいだ時間を過ごすことができるスペースを検討し、時間があればいつでも出かけたくなるような、より魅力ある施設となるよう努めます。

○新しい魅力にあふれる福社会館づくり

これまで開催してきた様々な趣味の講座、同好会の活動などの生きがいくつりに加えて、共同開催する講座を新設するなど、今まで以上に多くの方に利用したいと思われる事業を検討します。

○様々な世代とふれあうことで、生きがいを持てる福社会館づくり

小学生、乳幼児、若者を含む幅広い世代と、共同開催する事業や共同利用できるフリースペースなどでふれあい・交流を図ることで、高齢者の生きがいくつりのきっかけとなる施設をめざします。

○利用者にやさしく思いやりのある福社会館づくり

施設内の段差解消をはじめとしたバリアフリーはもちろんのこと、ユニバーサルトイレの整備、わかりやすい案内表示など、利用するにあたって安全、安心して利用できる施設として整備します。

また、施設内の換気に配慮した空調、利用人数によって可動式間仕切りなどで部屋の広さを調節するなど、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた「新しい生活様式」に対応した施設として整備することで、利用者の安心・安全に最大限に配慮した施設として整備します。

【児童館】

乳幼児期から中高生世代までの全ての子どもが魅力を感じられる児童館づくりを基本的な考え方として、以下の整備方針とします。

○子どもが自ら利用したくなり、自由にのびのびと遊べる児童館づくり

小学生や中高生世代の子どもが自らの意思で利用したいと感じ、日常の居場所として快適に過ごせる児童館とするため、入口や受付、ロビーの構造や全体の色彩等を工夫し、開放的で利用しやすく温かみのある空間づくりを行います。

また子どもが自分自身で考え、遊びを作りあげていくことができるよう、部屋のレイアウト変更が容易にできる、防音にしっかり配慮されているなど、活動の自由度が高まる施設整備をめざします。

○中高生世代にとって居場所としての魅力があふれる児童館づくり

中高生世代は話し相手や仲間を作ること等ができる居場所で、様々な交流・体験を行い成長が図られることから、これまで「中高生の居場所づくり」に取り組んできましたが、現在の児童館設備等では十分に対応できていない面もあります。そのため、児童館が中高生にとって魅力あふれる居場所となるよう、運動や学習、音楽、文化活動等が行えるようにするとともに、利用しやすい時間帯（平日の夜間等）での開館や複合化する他施設設備の活用など運営上の工夫について施設の一体的な管理等のメリットを生かして実施していきます。

○様々な体験や交流を生みだし、子どもが自身で成長していく児童館づくり

児童館を利用する子どもが様々な体験をし、また地域の幅広い年代の方々と交流することで健全育成を進めていくため、地域の住民や団体、学校施設・生涯学習センター・福祉会館等との連携・協働による新たな事業展開について、必要に応じて他施設の設備を活用しながら取り組んでいきます。

また児童館を利用する子どもや地域の方々が、自発的にボランティアに参加するよう支援を行い、子どもが地域等と交流し健全育成が図られる機会をつくとともに、中高生世代、大学生等を対象としたボランティアの育成が促進されるよう、活動場所を提供する等の支援をしていきます。

○子どもが抱える悩み等に気づき、適切な対応をしていける児童館づくり

児童館と子どもたちが信頼関係を築き、不登校等の学校関係、家庭や友人関係など、それぞれが抱えている悩み等を気軽に相談できるよう、また職員が利用者の普段と異なる様子等から抱える課題等に気づき適切に対応していけるよう、受付や事務室、各部屋の配置を工夫するなど職員が訪れる子どもの様子を観察しやすく、またいつも顔を合わせて話しができ、安心できる居場所としての環境をつくります。

○すべての利用者が安全・安心で快適に過ごせる環境整備

児童館が安全な居場所となるよう事務室からの見通しが良い部屋の配置や防犯カメラの設置等によるセキュリティ機能を充実させます。

すべての利用者が児童館を快適に利用できるよう、ベビーカー置き場の設置やWi-Fi環境の整備などを行います。